

「正信念佛偈」データベースとe-ラーニングの構築－その1

研究代表者 深見友紀子 京都女子大学発達教育学部児童学科教授

研究協力者 遠山和大 岡山大学教育開発センター助教

研究協力者 野村伸夫 京都女子大学発達教育学部児童学科元教授

浄土真宗（真宗）各派における「正信念佛偈（正信偈）」は、日常勤行にも頻繁に用いられている最も一般的な偈文の一つである。この「正信偈」には読誦の際の旋律が定められており、偈文は同一であっても、その旋律は各派ごとに異なる。この差異は、各派の歴史的な背景や、偈文に対する解釈に起因するものと考えられるが、各派の旋律を比較する研究は、申請者等の知る限りにおいて、これまで行われておらず、ましてや、「正信偈」の旋律のデータベース化は行われていない。

そこで、本研究では、各派における「正信偈」の旋律を収録・採譜し、各派ごとの旋律について、音楽的な観点から差異を明らかにする。また、各派の教学担当者にインタビューを行い、旋律における音の高低や長短等、音型の特徴が偈文の内容に対してどのような意味を持つのかを調査・分析する。以上を通じて得られた各派「正信偈」の楽譜・音声、および解説等をデータベース化してweb上に公開し、京都女子大学学生および「正信偈」に関心をもつ人々がeラーニング教材として活用できるようにする。

なお、本研究は2ヶ年度にわたって進める予定であり、本申請はその1年目である。本年度は、真宗教団連合に加盟する真宗10派※のうち、本願寺派・大谷派・佛光寺派・興正派・木辺派の5派の本山において調査・分析を行い、残る5派については次年度に実施することとする。

※真宗10派とその本山：本願寺派（京都市、本願寺）・大谷派（京都市、真宗本廟）・高田派（津市、専修寺）・佛光寺派（京都市、佛光寺）・興正派（京都市、興正寺）・木辺派（野洲市、錦織寺）・出雲路派（越前市、毫撰寺）・誠照寺派（鯖江市、誠照寺）・三門徒派（福井市、専照寺）・山元派（鯖江市、證誠寺）